仁川大学

2024年8月（2週間） / 英語学科4年

仁川大学の夏期短期研修（異文化理解演習）*に参加しました！

*協定校として授業料・寮費は特別免除（参加人数に上限あり）

【学修成果】

韓国語は独学で勉強していたため、教室で韓国語を勉強すること自体が初めてでした。レベルチェックテストで上級クラスに振り分けられ、これまでの韓国語学習の成果が出たようで嬉しい反面、授業についていけるのか心配でもありました。しかし、授業が始まってみると、先生の教え方がとても丁寧で、楽しく授業を受けることができました。また、寮の管理人さんやお店の人から「韓国語が上手だね」と言っていただけたことが韓国語学習のモチベーションをさらに高めてくれました。

【生活面】

文化の違いというものが沢山ありました。一番驚いたのはバスの乗り降りです。バス停で乗ることをアピールしないと停車してくれないことに加え、降車ボタンを押しても、交通カードを事前にタッチしてドアの近くにいないと止まってくれないこともありました。

また、人との関わりにも文化の違いを感じました。韓国人はとてもやさしく、困っていたらすぐに手を差し伸べてくれることが多いと感じました。そんな時、思わず「すみません」と言ってしまうのですが、ほとんどの韓国人からなぜ謝るのか、素直にありがとうと言えばいいよ、と言われました。自分自身も「ありがとう」と言われると気分が良いので、これから日本でも素直に「ありがとう」と言えるようになりたいと思いました。

【安全面】

韓国では基本運転が荒いので、きちんと周りを見て歩かないと轢かれそうになることもあり、少し怖いなと感じましたが、きちんとその国の文化やルールを知っておくことが大事だと思いました。

【感想】

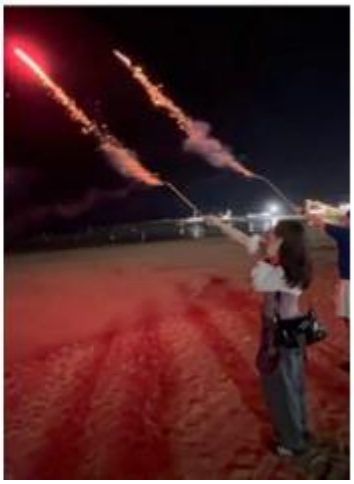
今回の研修で言語学習の面でも異文化理解の面でも、多くのことを学ぶことができました。一番感じたことは、視野を広げるというよりも自分の視野を自分で狭めることをしてはいけない、ということです。偏見や固定概念にとらわれていると、自身の視野を固定してしまい、いくら視野を広げようとしてもそれが邪魔をしてしまいます。異文化に飛び込んで視野を広げるためには、まず異文化を受け入れる心を持ち、純粋な視点で物事を見る必要があると感じました。

そして、もう一つ感じたことは、たとえ外国であっても、どうにかなるということです。周りの人は国籍に関わらず手を差し伸べてくれるので、あまり心配し過ぎずに、どうにかなるや精神でいることが大切なのかなと改めて感じました。

この研修は私にとって大学生活最後の羽を広げる機会であったと思います。自分の身をもって感じ学んだことを忘れず、羽を広げたまま社会に出ることができるように、しっかりと心に留めて過ごしていきたいです。

仁川大学

2024 年 8 月（2 週間） / 英語学科 3 年



仁川大学の夏期短期研修（異文化理解演習）*に参加しました！

*協定校として授業料・寮費は特別免除（参加人数に上限あり）

【学修成果】

合計 25 時間の韓国語の授業がありました。私は中級-I のクラスで文法を学んだおかげで、曖昧になっていた文法が解決し、さらに自分は副助詞や格助詞が苦手だということにも気づかされました。そして、もっと状況に応じた文法の使い方を知り、活用できるようになりたいと思いました。

異文化体験では、文化村でトンボ結びを使ったブレスレット作り、仁川経済自由区域 IFEZ 広報館、国立世界文字博物館、国立博物館などを訪れました。ブレスレット作りでは、歴史の深さを感じ、IFEZ 広報館では 33 回の高さからの仁川の景色を堪能したり、国立世界文字博物館では韓国語の歴史だけでなく、中国語や日本語の成り立ちを学びました。

【生活面】

印象に残ったことが3つあります。1 つ目はテイクアウトの違いです。テイクアウトした商品が容器に入った冷凍された食材で、自分で調理しなければいけませんでした。日本ではなかなかないスタイルでしたが、調理して食べると、お店で食べる味と変わらず美味しかったです。

2つ目はコーヒー店の多さです。寮の下にもコーヒーのチェーン店があり、その 2 店舗先にもコーヒー店があったりと日本以上にコーヒー店があり、値段も日本より安かったです。

3つ目は情が深いということです。研修初日に必要なものを買い出しに行った際、バディの方が重いものを持ってくれたので、そのお礼にジュースをあげると、とても驚かれました。純粋に相手を想っての行動をしているのだと感じました。

【安全面】

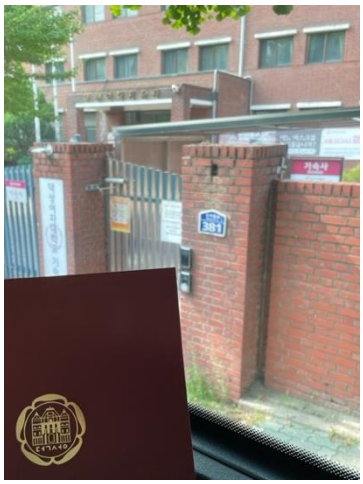
バスに乗車する時は注意をしました。バスに乗車をして IC カードをタッチすると、乗客が席に着く前にドアが閉まり発車するというのが当たり前でした。日本のような転倒防止の考えはあまりないということを知りました。

【感想】

何事にも積極的に取り組むことで世界が違うことを学びました。今回、参加者全員が韓国に興味があるという共通点があったため、自分も含めてみんなが積極的に話していたと感じていました。そのため、積極的に話をしたり、行ったことがないところへ行くことで多くの文化に触れることができたと思います。また、コミュニケーションを加速させるポイントとして、自分の気持ちを素直に言うことも関係構築の 1 つのコツであるということを学びました。

徳成女子大学

2023年8月（2週間） / 英語学科2年



授業料・渡航費・生活費が免除される韓国政府の給付奨学金プログラム*に採用されました！

*「2023 日韓共同高等教育留学生交流事業学部短期過程」

【学習面】

平日は、基本毎日 9～16 時まで授業があり、科目は「韓日異文化コミュニケーション」「映画で見る日韓の社会と文化」「日韓翻訳実習」「韓国語特講 I･II･III」「文化体験」がありました。日本語と韓国語を混ぜて行われる授業など、授業形態は様々でした。文化体験の授業では、ロッテワールドに行ったり、キンパや伝統菓子を作ったり、韓服を着たりしました。

【生活面】

徳成女子大学はソウルの北にあり、山に囲まれていて、自然豊かなキャンパスでしたが、ソウルの中心部からは少し離れていました。

韓国は、交通費が安く、授業終わりや週末は自由時間だったため、他の研修生や韓国人バディと遊びに行きました。

韓国ではクレジットカード払いが主流なので、私は WOWPASS を利用しました。各駅にチャージする機械が置いてあり、両替所に行かなくても日本円からウォンを引き出すことができ、さらに交通系カードと一体型になっていることもすごく便利でした。

【異文化の気づき】

韓国人は「パリパリ文化」といわれるほどせっかちだということは知っていたのですが、予想以上でしたが、慣れてしまえば、スムーズさが良いと感じるようになりました。

最もカルチャーショックを受けたものは「トイレ」です。駅や空港、学校、寮ではトイレットペーパーを流すことができたのですが、流せない場所もあり、置いてあるゴミ箱に捨てなければなりませんでした。

【感想】

韓国の方は、自分の気持ち・考えを相手にきちんと言葉で伝える、少し欧米よりだと感じました。 また、韓国の学生は勉強への意識がすごく高かったです。資格を取ったり、多言語を習得したりと、大学生になっても勉強を続けていました。

何より私の視野を広げてくれたことは、研修に共に参加した 19 名の学生に出会えたことです。興味があるから・自分の価値を高めるため・世界を知りたいなどの理由から、自分のやりたいように楽しく学んでいて本当に刺激になりました。

都会で過ごすレベルの高い学生に出会えたこと、韓国社会や韓国人への気づきを得る機会をいただけたことは、私の人生において大きなチャンスだと思っています。これから、もっと語学学習に本腰を入れて取り組み、勉強を頑張りたいと考えています。

海外インターン

2023 年 8 月（3 週間）/英語学科 3 年

オーストラリアで 3 週間の日本語教師アシスタントのインターンシップ*に参加しました！

* MyStage 手配

【プログラム】

第 1 週目の 2 日間は幼稚園で勤務し、翌週から高校で勤務しました。幼稚園では、主に園児と遊んだり、工作の補助、園内の掃除など、まさに保育士の職業体験でした。オーストラリアなので、ルーツが一様ではなく、幼少期からそれぞれの見た目が違う環境で育つのは良いな、と思いました。

高校での仕事は主に日本語の授業での机間指導、スピーキングの練習、授業で使う教材作成、日本語の作文の添削などをしました。生徒たちからはどれだけ日本が好きで、どれだけ日本に行きたいのかがすごく伝わってきました。空き時間や移動時間などには積極的に先生方に英語で話しかけて、少しでもコミュニケーションを取ることを意識しました。

【滞在先】

ホームステイ先のファミリーは、インドネシア系オーストラリア人でした。ホストファミリーはとても優しく、駅まで迎えに来てくれたり、私の部屋にはきれいなトイレとシャワーがついていて、とてもラッキーでした。就寝が早く、起床も早かったので、私もそのような生活リズムになって、よく睡眠時間が取れていました。

【現地での交通】

現地での公共交通機関の支払では Opal Card を使っていました。1 週間の利用運賃が 50 ドルを超えると、それ以上の運賃は発生しないサービスでした。また、抜き打ちで駅員さんから適切にカードを利用しているかチェックもありました。

週末に突然 Technical issue という理由で電車が動いていないことがあり、運行状況が分からず、出先から家の最寄り駅まで変えるのに苦労したことが数回ありました。また、タクシーが 1 時間たっても来ず、結局タクシーを諦めたこともありました。このような面で比べると、日本のすごさを改めて思いました。

【感想】

私は、将来英語の教員になりたいため、オーストラリアの教育現場で有意義な時間を過ごすことができました。ある先生から「英語を勉強する上で主に 2 つの目的がある。1 つは趣味や仕事のため。2 つ目は生きるためだ」と言われました。確かに、私の英語力が伸びないのは、勉強が足りていないことと、何のために勉強をしているのかの意識が低いことに気づきました。英語の教員を目指すからには、ずば抜けた英語力を持っていなければなりません。残りの大学生活でできるだけ英語力をつけられるように頑張ろうと思います。

海外インターン

2024 年 8 月（2 週間）/英語学科 3 年

オーストラリアで 6 週間の保育士アシスタントのインターンシップ*に参加しました！

* MyStage 手配

【プログラム】

2 歳から 5 歳くらいの子供たちを預かっている幼稚園でのインターンシップに参加しました。働いたのは月曜日から金曜日まで、9 時から 17 時までででした。子供たちは人種も個性もバラバラで、全員と話そうと考えてはいたが、いざ自分から話しかけようとすると声のかけ方が分からずに、話しかけても無視をされることも最初のころは多々あった。しかし、めげずに何回か話しかけたり、一緒に遊ぼうとする姿勢を見せると少しずつ心を開いてくれた気がした。この経験から、相手の特徴を捉えながら自分から話しかけること、めげないこと、相手を思いやることの大切さを改めて実感しました。

【生活面】

オーストラリアで一番感じた日本との違いは、時間に自由であることです。インターンシップ先でも出勤時間や休憩時間などの管理が紙に書くだけで、日本と違って自由だな、と感じました。

また、子供たちに対する接し方にも違いを感じました。オーストラリアでは子供が何か成し遂げたことに対して、日本ほど褒めずに話を聞く程度であったように感じた。いい意味で子供たちに対してドライな対応が多かったです。

ホームステイ先では、家に入る時に靴を並べたり、挨拶をするだけで「とても礼儀正しいね、さすが日本人だね」と何回か言われる経験をしました。日本人にとって普通のことでもオーストラリア人にとっては当たり前ではないのだと実際に感じる瞬間でした。

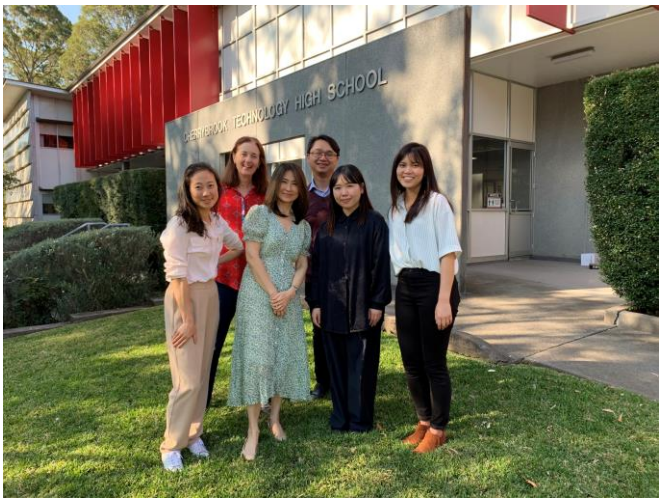
【安全面】

現地で生活する上で気をつけたことは、肌身離さずクレジットカードとパスポートを持ち歩いたことです。また、電車に乗る時のように人混みに紛れる時は、手荷物は必ず自分の前側に持ち、自分の目の届くところに常に持っていました。通勤用にはファスナーがついたトートバッグを選んだので、ファスナーを自分が見えるほうに持ってきて、他の人に触れられないように気をつけていました。オーストラリアは比較的治安はいい方であると思うが、このくらいの心構え（危機感を持つ）の方がいいのではないかと感じました。

【感想】

自分から進んで行動することの大切さを学びました。恥ずかしがって聞くことをためらっていたら、ずっと分からずじまいかもしれないという状況を経験して、人に尋ねること、自分から行動することの必要性を感じました。日本でも進んで行動して自分でチャンスをつかめるような人間になりたいと思いました。

海外インターン 2023年8月～2023年9月/英語学科4年



オーストラリアで 6 週間の日本語教師アシスタントのインターンシップ*に参加しました！

* MyStage 手配

【プログラム】

Cherrybrook Technology High School という中高一貫校で日本語教師アシスタントとしてインターンシップに参加しました。主な業務として、日本語が苦手な生徒のサポート、高学年のスピーキング練習、ワークシートの作成、テストの採点などがありました。日本語の授業でしたが、授業の 9 割が英語で行われ、生徒と話すときは 100%英語なので、日本語よりも英語に触れている時間が長かったように思います。

【生活面】

3 人家族の家庭にホームステイをしました。ホストマザーが作るご飯はとても美味しく、日本料理も作ってくれたりしたので、食事で困ることはありませんでした。ホストファミリーの家から派遣先の学校までは近かったため、通勤は徒歩 15 分程度でした。

【安全面】

私が住んでいた町はとても静かで、地元の人が「ここは平和なところだ」と言うくらい穏やかな街でした。すれ違う人からも笑顔で挨拶をしてくれる方ばかりで、和やかな気持ちになっていました。

シティの方に行くとホームレスの人が多かったです。いくら安全でも、夜遅くないとしても、何が起こるか分からないため、1 人で遠くに行くことは避けていました。

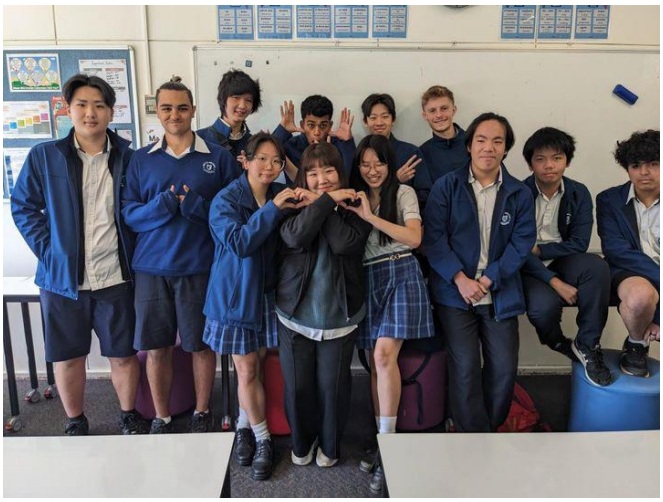
【感想】

オーストラリアで過ごした 6 週間は、今まで生きてきた中で一番楽しくとても充実した時間でした。もちろん、楽しいことや嬉しいことだけではなく、悲しいことや悔しいこともありましたが、毎日が学びの連続ですべての経験が大切なものとなりました。

この 6 週間で学んだことが 2 つあります。1 つ目は、英語が完璧でなくても英語を話そうとする気持ちや態度が重要であるということ。そして、2 つ目は何事も行動あるのみだということです。学校だけでなく、ホームステイ先でも自分から一歩踏み出して行動することで、物事が改善するという経験をしました。書ききれないほどの多くの経験をし、たくさん失敗し、恥ずかしい思いもしましたが、その失敗があったからこそ成長することができました。

6 週間オーストラリアで生活してみて、私はやっぱり英語が好き、ということと、英語を使って海外で働きたい、ということを再確認しました。このインターンシップで得た経験を最大限に活かして、将来は言語や文化を超えて国と国とを繋ぐ仕事をしたいと思います。

海外インターン 2023年8月～2023年9月/英語学科4年



オーストラリアで 6 週間の日本語教師アシスタントのインターンシップ*に参加しました！

* MyStage 手配

【プログラム】

インターンシップ先の高校はシドニーの中心街から 1 時間程離れた郊外にある Castle Hill High School という公立高校でした。オーストラリアの高校は 6 学年で構成されており、全ての学年で日本語の授業が行われていました。

日本語教師アシスタントの業務は、基本的に 1 時間目から 6 時間目までの時間割に組み込まれている日本語の授業に参加し、生徒たちの授業のサポートや授業で使用するワークシートの作成、クラスアクティビティの作成、プレゼンテーションの作成と発表を行いました。また、高学年の学生に対してはスピーキングの質問一覧表を用いて生徒たちと一対一で受け答えの練習を行ったり、ライティングの練習のためにサンプルの文章をいくつか作成しました。

【生活面】

私のホームステイ先の家はインターンシップ先の高校からバスト徒歩で 30 分ほどでした。ホストファミリーはインドネシア出身の 4 人の暖かい家族でした。ホストファミリーとは毎日 18:30 から夕食を一緒に食べて会話を楽しんだり、食後にゲームを一緒にしたり、テレビでサッカー観戦などもしました。ホストファミリーが以前日本にも住んでいたことがあったため、日本食も時々出してくれました。

【安全面】

ホームステイ先やインターンシップ先が郊外に位置していたということもあり、住宅街やスクールゾーンであったため比較的落ち着いた雰囲気の地域で、安全性は高かったと感じました。

シドニーの中心街へ行くと、より人が多く賑やかで様々な人が混在していましたが、予め注意喚起されていた地域には行かず、変な行動を取らないように心がけていました。

【感想】

特に私が日本との違いを大きく感じたことは、人種に関することです。様々な文化と人種が入り組むオーストラリアだからこそで、先生方が人種に関してかなり慎重に取り扱われていることを学びました。

また、母語を第二言語として教えるということは本当に難しいということを実感しました。日本語を英語で生徒たちに教えることはかなり大変でしたが、日本語ならではの良さも学ぶことができたため、とても良い経験となりました。

今後は、まずは目の前のことに、そしてその先の将来を見据えて様々なことに取り組んでいきたいと思います。

PIA

2024 年 8 月（3 週間）/ 国際文化学科 1 年

自ら行動すること！
自分の身は自分で守ること！
自分の行動の責任は自分で取ること！

【学修成果】

自ら話しかけること、行動することの大切さについて学び、積極的に行動する力を身につけることができました。プログラムの一環で、ポートランドのダウンタウンで街の人にインタビューを行うという取り組みがありました。知らない土地で知らない人に話しかける大変さを感じながらも、人と話す楽しさも学ぶことができました。このことから、自ら話しかけなければ何も始まらないということを学びました。私は今まで一歩踏み出す勇気を出すことが出来ませんでしたが、今回のプログラムを通じて多くの人と話をし、積極的に行動することが出来るようになりました。

【生活面】

留学生活で学んだことは、ホームレスや低所得者に向けた取り組みについてです。ポートランドには日本以上にホームレスが多くいました。私のホームステイ先の近くの道に冷蔵庫が置かれており、気になってホストファミリーに質問をすると、ホームレスのための食料が入っていることを教えてもらいました。私の偏見として、アメリカ人は冷たい人だと思っていましたが、実際には人のことも考え、優しさに溢れている人が多いということが分かりました。

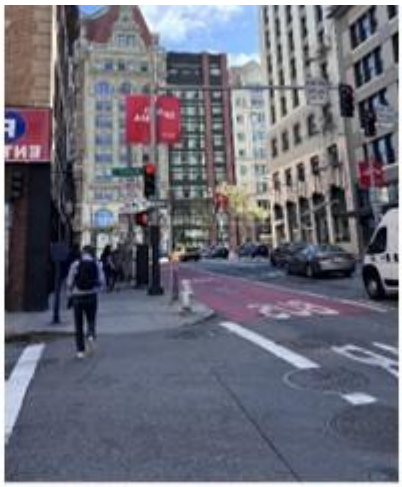
【安全面】

ホームレスの多さ、薬物を行っている人の多さに驚きました。そのため、夜 9 時過ぎには一人で出かけず、9 時以降に外出する際にはホストファミリーと一緒に出かけるようにしていました。また、ドラッグを使用している人やホームレスには近づかないようにしていました。

【感想】

今回の留学生活で学んだことは、自ら行動する、自分の身は自分で守る、自分の行動の責任は自分で取るという 3 点です。自ら行動しなければ何も始まらない。一歩を踏み出す勇気をもつことが最も大切なことだと学びました。しかし、知らない土地で行動するということは今まで危険なことから守ってくれていた家族や学校の人はいないということです。そのため、自分の身を守るのは自分しかいないという自覚を持ち行動をしなければなりません。そして、自分の行動の責任は自分で取ることも大切なことだと感じました。自分で決めたこと、自分で始めたことの行動の責任を取るのは自分自身です。

海外ボランティア 2024年8月（3週間）/看護学科2年



アメリカ・サンフランシスコで3週間の低所得者支援のボランティアに参加しました！

【プログラム】

ボランティア活動は主にパンにピーナッツとジャムを挟んで袋に詰める作業や低所得者への食糧配布、低所得者や障がい者への食事提供でした。ボランティアを通じて、生活していくために家賃などは必須であるため、食費を抑えるという低所得者の現状・背景があるのではないかと感じた。アメリカでは貧困の差はあるが、お金を持っている人が貧しい人を支えていくという文化が根付いていることが分かりました。

【生活面】

アメリカでは「Yes」「No」をはっきり言うことが必要であることを学びました。ホストファミリーにもはっきりとした意思表示をしなかったために、「一緒に出掛けたくないのか、意見がないのかと思った」と言われてしまいました。ほろ苦い経験ではあったが、この経験からはっきり意思表示を示していくことがアメリカでの良好な関係の築き方であると学びました。また、日本人のように断ったことを引きずるのではなく、柔軟に物事を捉えているなという異文化の違いを感じました。

【安全面】

公共交通機関に乗っている時だけでなく、街を歩いている時も常にバッグや身の回りの物は目に入る範囲（身体の前）に置くよう意識していました。また、毎回バス利用だったので、常にバスの前方、人が多くて立たなければいけない場合は運転手の真横にいました。街にいる人を見ても派手な格好や露出が多い服を着ている人はほとんど見受けられなかったため、目立たないということは大事であると感じました。街では暴言を吐いたりしている人がいたが、目を合わせないようにしていました。

グーグルマップなどのアプリを使って目的地まで行こうとすると、細くて人通りの少ない道を誘導してくることがあるため、遠回りになっても人通りの多い大きい道を行くようにしていました。

【感想】

生まれ育った国・環境が違えば様々な考え方や暮らしをしている人がいるということを実際に目で見て、関わって、感じることができました。ボランティア活動を通じて、自分は人と関わることが好きで、自分のしたことが誰かの喜びに変わり、それを言葉にしてもらい、受け取るということにやりがいを感じ、好きであることが分かりました。看護師になっても、その気持ちを忘れず、たくさんの人に喜びを届けられる看護師になりたいと思います。

海外ボランティア 2024年8月（3週間）/看護学科1年

アメリカ・サンフランシスコで3週間の日本語教師のボランティアに参加しました！

【プログラム】

「日本語を教える」ということは、一見看護とは全く関係がいないように見えますが、このプログラムを通じて看護に通じる「人との関わりかた」を身につけることができました。例えば、集中して授業を受けられない学生とどう関わるかと考えたり、個々の能力に応じた課題を出したりすることも求められました。アメリカは日本よりも「自己主張」をする国であるため、「したいこと」と「したくないこと」を主張する生徒が多かったように感じました。学校に慣れてくると、先生たちから頼まれる仕事も多くなり、毎日が充実したボランティア活動をすることができました。

【生活面】

アメリカの文化の特徴として、移民の街が形成されている、多種多様な食事を楽しめる、自分の意見や意思をはっきりと口にすることだと思いました。

外食の際にも日本との違いを体験しました。チップは食事の代金に対して 15%～20%程度を払わなければならず、飲酒年齢も21 歳からと日本と違いました。また、支払いはクレジットカードが主流で、店舗によってはクレジットカードによる支払しか受け付けていないお店もありました。

学校生活においても、年度の始まりの時期の違いや、学年の呼び方の違いがありました。小学校 1 年生から高校年生までを通じて 1 年生、2 年生、…12 年生と言うそうです。

交通に関しても、車が右側通行であったり、赤信号でも右折可能であったり、スクールバスが最優先であったり、様々な相違点がありました。

【安全面】

多くのホームレスがいました。通りを 1 つ間違えただけで多くのホームレスがいて急に治安が悪くなることもありました。ひったくりやスリといった軽犯罪の発生率も高いため、必要以上に大きいバッグを持たず、荷物は自分から離さないようにしていました。以下に日本が安全で豊かな国なのか改めて感じました。

【感想】

ボランティア活動やアメリカ生活をして学んだことは「人との関わりかた」です。みんなが同じ文化的背景を持っていないことを理解し、相手は今どう感じているのか、自分はこれから何をすべきなのか、これからもっと多くの人と関わって、活動を通して得た力を活かしていきたいです。

海外ボランティア 2024年8月（3週間）/看護学科4年

アメリカ・サンフランシスコで3週間のチャイルドケアのボランティアに参加しました！

【プログラム】

今回、Chibi Chan Tooという日系の保育園で3週間のボランティアに参加しました。日本の保育園でアルバイトをしていることから子どもの扱い方には慣れている方だと思っていましたが、幼児の英語を理解するのが難しかったり、子どもが人見知りをしたりして、始めは日本の子どもよりもコミュニケーションを取ることに時間がかかりました。しかし、その保育園では「子どもを尊重した関わりをすること」を大事にしており、一人ひとりにあった遊びの提供や、自己肯定感を上げるような声がけを意識することで、最終週には現地の保育士の方と同じように子どもが関わってくれるようになりました。

【生活面】

最初に行った観光場所が「カストロ」というLGBTQの街として有名な所でしたが、全裸の男性が店の中を自由に出入りしていて、それに周りの人も動じていないことに驚きを隠せませんでした。日本では絶対に有り得ない光景で、自由の国だな、ということをひしひしと感じました。ホストファザーからは「あの街はお互いがお互いのことを分かり合っているからこそ、犯罪が起きずに治安がいい場所なんだよ」ということを教えてもらい、知らず知らずのうちに偏見を持ってしまった自分が恥ずかしくなりました。

【安全面】

治安が悪い場所（ホームレス街）などは特に悪かったです。治安が悪い地域にある学童にボランティアに行った際、公園に行く道でもホームレスの人が騒いでいたり、ゴミが至る所に落ちていました。通るだけでもビクビクしてしまうような道を子ども達は何も動じずに歩いており、その環境が当たり前になっているのだということに気づきました。簡単に薬物が手に入りやすいことや不衛生な場所で生活するなど、環境が人を変える要因となりうるため、悪循環な環境だと感じました。

普段の生活では、バスでは絶対に寝ない、服装や持ち物から観光客とバレないようにする、夜は外出しないなどを徹底しました。

【感想】

保育園や学童でのボランティアだけでなく、社会人交流会や観光を通じて、日本の文化や考え方を見直すきっかけとなりました。3週間という短い間で自分が成長したと感じる部分は少ないですが、物事の考え方を深めることが出来ました。今回学ぶことが出来たお互いの国のいいところを取り入れながら生活してくことが、これから私が行っていくべきことではないかと考えています。